

# Miyako Kitakamisanchi Museum of Folklore

## 資料館 だより

### NO. 17

## 宮古市北上山地民俗資料館

2011.3.31 発行

岩手県宮古市川井2-187-1 TEL0193-76-2167  
http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/

### 資料館たんけん隊

北上山地民俗資料館では、子どもたちを対象に、昔の暮らしやもの作りの一端を体験する学習会「資料館たんけん隊」を開催しています。今年度実施した3つの学習会の様子を紹介します。



山の尾根にある「早坂一里塚」(市指定史跡)で記念写真

#### 「昔の道路を探検しよう」2010.11.20

宮古街道の「早坂一里塚」や、道標などを見学しました。

### 資料館見学に来て!!

当館では、学校の授業や子ども会活動等での見学にあたって、学芸員による展示解説を行っています。実際に資料を手にとつての観察や、体験学習にも対応します。その場合は、見学の内容や日程を事前にご相談下さい。



見学の様子(川井小学校1、2年生)



【つかり】の説明を聞いてから小物作りに挑戦

#### 「クルミの皮で壁かけ作り」2010.9.18

当館にはシナノキやサワグルミなどの木の皮を利用して作られた昔の道具がたくさんあります。この日は、小物作りをとおして子どもたちに樹皮の手ざわりを感じてもらい、製作技術の一端を知ってもらう体験教室を開催しました。クルミの樹皮で作られた【つかり】の説明を聞いてから、実際に細く裂いたクルミの樹皮を平組みにして壁かざりを作りました。



【すご編み台】で作ったコースター

#### 「昔の道具でコースター作り」2011.1.8

炭俵を編むのに使った【すご編み台】を利用して、コースターを作りました。この【すご編み台】は、コースターのような小物も作れるように大工さんに工夫してもらったもの。参加者たちは重りをつけたたこ糸で細く切った布を編みながら根気強く作業を続け、コースターを完成させました。

## 「二泊三日の宮古街道」

今年度の企画展では、現在の国道106号線のもととなった宮古街道について、関連の史跡や民俗資料を紹介し、その歴史や街道のはたしてきた役割について紹介しました。

展示した資料は、当時の街道の様子が見える江戸時代の絵図（複写）や、街道沿いに今も残されている道標の拓本、一里塚の写真、[荷蔵]などの馬具や馬車宿で使用されていた[膳]などの民俗資料です。あわせて、宮古街道の記憶について高齢者の方々からお聞きした内容も紹介しました。見学者からは「知らずにいた、かつての街道に思いを巡らせることができた」「絵図が工夫して展示してありわかりやすかったが、現在の道と比較できる資料があればなおよかった」などの感想が寄せられました。

また、期間中には宮古街道の史跡探訪会や、ウマの蹄を守るためにはかせた[ウマわらじ]の製作実演も行いました。



「二泊三日の宮古街道」展示の様子



「ウマわらじ」製作実演の様子  
(実演：小国地区 湯澤孝さん)

## 館務実習生の受け入れ

2010.9.23～25

博物館などで働く学芸員の資格取得を目指す、岩手大学人文社会科学部の学生10名が当館で館務実習を行いました。実習生は、展示用パネルの作製や体験教室の材料準備、聞き取り調査などの館内実務の実習のほか、民俗資料への理解を深めるため雑穀畑の見学や藁ぞうり作りの体験も行いました。

### 館務実習の感想

**国際文化専攻 河西朋子さん**「…中村フヂノさんや中仁澤隆さんへの聞き取り調査で、当時のお話を聞いたり、わら草履作りでは湯澤武さんたちに草履をはいた当時のことを聞いたり、とても参考になった。博物館として、地域の人々と交流していくことが、人とのつながりを作ると同時に、学芸員としての勉強になるのだと思う。…」

**環境科学専攻 伊藤寛治さん**「…年配の方が多くの知識、技術を持っていて、このような聞き取り調査を行わなければそれらは全て失われていくことを知り、学芸員の仕事はただ館で資料を保管・管理するだけでなく、フィールドワークを通してその地域特有の伝承や知識、技術をまとめ後世に残していくことも重要であると思った。…」

岩手大学の実習生は、当館の開館準備にあたり資料整理に協力いただいたのをきっかけに受け入れており、今年で16年目です。この他、大学側から実習生の受け入れ依頼があった場合、宮古管内出身の学生を受け入れています。



生活用具についての聞き取り調査の様子  
(協力：中村フヂノさん)



「百万遍の数珠」についての聞き取り調査の様子  
(協力：中仁澤隆さん)



藁ぞうり作り体験の様子  
(協力：湯澤武さん 湯澤孝さん 荒田忠一さん)



見学させていただいた「氷庫小屋」の前で  
(協力：高屋喜多男さん)



## 実測図講習会を開催

巻末の資料紹介で民俗資料の実測図を紹介していますが、当館では開館以来、所蔵する民俗資料について、記録保存を目的とした実測図の作製を行っています。

この実測図作製の意義と実際の作図方法を知ってもらい、作図者を養成することを目的に、12月から2月にかけて3回の実測図講習会を開催し、見学者を含め6名が参加しました。



実測図講習会  
講師の名久井芳枝先生



計測作業の様子

## 小国分館の利活用について

旧小国中学校が平成17年に閉校してから、旧体育館部分を民俗資料の収納庫として整備してきました。その後、平成21年9月からは旧校舎も含めて小国分館となったため、具体的な施設の活用について検討を進めてきました。

現在、収納庫には「機織り機」や「唐箕」などの大型資料を中心に、およそ3,000点の民俗資料を分類して収納し、隔年でくん蒸を行い保存管理を行っています。また、分館に収納している資料は、主に企画展の展示資料として、本館で展示を行い紹介してきました。

今後は、旧校舎の各教室に「山仕事」「食生活」「手細工」「郷土芸能」などのテーマを設け、民俗資料の分類展示を行い、さらに「実習作業室」も設けて体験学習にも対応できるように整備をすすめていく計画です。

現在は民俗資料の配置計画の段階ですが、展示の形が見えてきた段階で、旧校舎の一室にある旧小国中学校メモリアルホールとあわせて、見学会を開く計画です。



小国分館の収納庫の様子 (旧体育館部分)

### 訃報

当館運営委員の芳門留次郎氏が1月5日、ご逝去されました。芳門氏は昭和30年代から旧川井村の郷土誌編さんに携わり、その後も村文化財調査委員長として民俗調査や執筆活動にご尽力され、当館建設の礎ともなった方です。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 北上山民俗資料館公式ホームページの再開 10月1日～

平成22年1月1日の旧川井村の編入合併以降休止していた、当館のホームページが再開されました。

アドレスは<http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/>で、宮古市のホームページ (<http://www.city.miyako.iwate.jp/>) のトップページにもバナーが設置されています。

### ●今年度の入館者数 (2月28日現在) (人)

一般	学生	児童	団体
373	8	11	203
免除・公用 一般	免除・公用 学 生	免除・公用 児童生徒	合計
288	11	61	955

### 来館者の感想 (メッセージノートより)

- いつも106号線を通りながら、訪ねる機会がありませんでした。当時の道具から感じられる先達の御苦労に、ただただ恐縮しました。(4月3日 市内からの見学者より)
- 早池峰山信仰についても知ることができました。早池峰山頂にあった数多くの剣が、奉納剣だったことがわかりました。(6月4日 東京都から自転車で旅をして来られた方より)

## ◆民俗資料のガスくん蒸 (10月4日～9日)

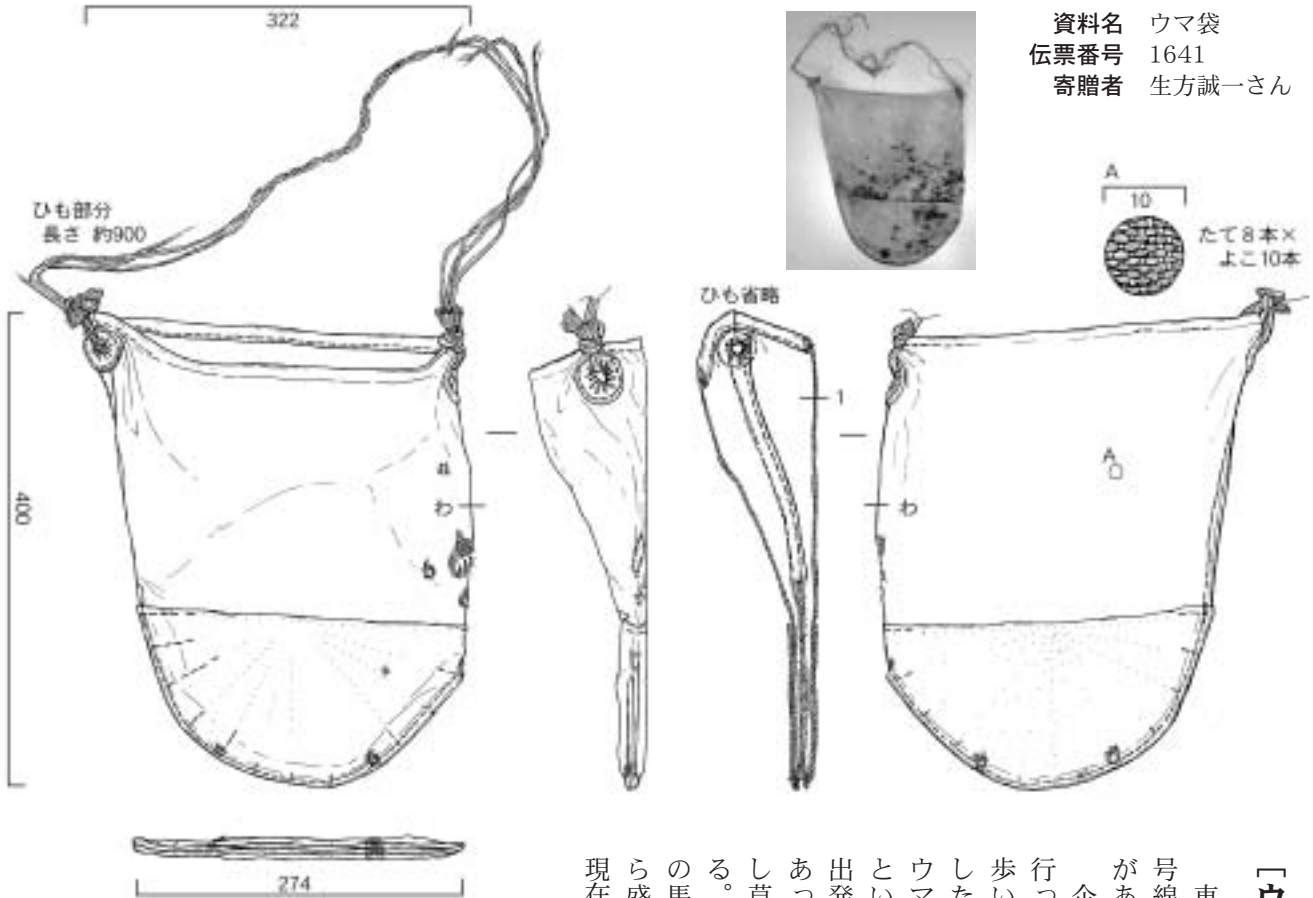
小国分館のくん蒸を行いました。ガスくん蒸は木材や布でできている民俗資料を虫やカビの害から守るために行っています。作業は専門業者によるものですが、くん蒸後も日常的に清掃や点検を行い、害虫がすみにくい環境を維持するよう努力してまいります。また、資料の虫害防除については、国や県の文化財保護の方針に沿って、他館の動向を見極めながら、今後もより良い方向を模索してまいります。

## ◆資料の寄贈 (平成22年3月～23年2月)

前川作右工門様 (大仁田・新田集落の百万遍数珠)、名久井文明様 (鐘など)、米澤豊様 (バット)、大向源伍様 (ゆり板)、中村フヂノ様 (こて)、中仁澤隆様 (極楽道中絵図)、館向精志様 (文箱)、八木勇太様 (写真)、佐々木富治様 (松灯蓋)

ご協力ありがとうございました。スペースの都合ですぐに展示はできませんが、お名前を明記し、展示資料と同様にきちんと管理して参ります。

資料名 ウマ袋  
 伝票番号 1641  
 寄贈者 生方誠一さん



- 使用方法** ウマの餌（マメ、ヒエ、ムギなどを煮たもの）を入れた。ウマの背にかけて両脇からぶら下げた。
- 備考** この袋を持っていなくても、簡単な袋に餌を入れて持ち運んだ。
- 話者** 生方ヒテさん、引屋敷キワさん
- 調査者** 深川文野（2004年8月6日  
岩手大学博物館学実習生）
- 作図者** 高橋稀環子

**実測図とは・・・**

実測図は民俗資料をきちんと計測して図面化したもので、民俗資料の素材、構造、製作技術、外形などの情報を伝達することができます。当館名誉館長の名久井芳枝先生は実測図には次の3つの役割があると述べておられます。

- 記録保存資料（未来への情報伝達）
- 啓蒙資料（一般の人々への情報伝達）
- 学術資料（研究者への情報伝達）

作図者がじっくりと観察し、丁寧に仕上げられた実測図は、当館の記録として蓄積されるだけではなく、他地域や未来へ向けた情報発信の手段ともなります。作図作業は地道で労力を必要としますが、今後も当館では地域の伝統文化を記録する実測図作製を続けていければと考えています。

「ウマ袋」を実測して  
 車で何気なく通りすぎている国道一〇六号線にも、かつては徒歩で行き来する時代があった。  
 企画展「二泊三日の宮古街道」のために行った聞き取り調査で、門馬から盛岡まで歩いた経験をお持ちの方からお話をお聞きした。少女時代、父親が「お競り」に出すウマを連れていくのに同行したことがあるという。その行程は、門馬を夜の八時頃に出発し、夜通し歩いて翌日の日中に川目にあつた茶屋に到着。まずウマに「やだ（干し草）」を与えて休ませ、自分たちも休憩する。そこで宿泊もして、早朝四時頃、盛岡の馬検場に向けて出発したという。門馬から盛岡までは、橋やトンネルが整備された現在の国道でも三十五km以上の道のりである。

「ウマ袋」は、ウマを連れて歩く道中、ウマに与える餌を入れて持ち運んだ袋である。紹介したほかにもう一つ同じものがあり、そちらには人間の食料を入れたという。両方を紐でつなげて、ウマの背中にかけて運んだ。褐色の染みがついているが、この袋にはどちらの食料が入っていたのだろうか。  
 材質は厚手の帆布で、袋の中ほどから底にかけてさらに帆布を重ね、刺しこをほどこして強度をもたせてある。底は合計八枚の帆布がミシンで縫い合わされている。頑丈な作りだが、ところどころ糸がほつれ、穴もあいている。ウマの背で運ばれるうちに擦り切れたものだろう。観察しながら、徒歩での旅はいつたいどんな様子だったのだろうかと思いを巡らせた。

高橋稀環子（当館主任学芸員）